

334MDアラート委員会が物資を地域内外から集め、福島県相馬市に4 tトラックで運ぶと聞いて、道中の東京から同乗して避難所へ物資配布のお手伝いをしてきました。



松川浦という観光景勝地が市内の東側にあり、その周囲の方が被災しています。時間の都合で、一部の被災地を見るだけでしたが、道路に船が置き去りにされていたり、海側に植えてあった防風林が根こそぎ流されて、周辺の田や道に直径50 cmもの松が散乱しています。田は海水が今でも貯まっていますので、何年も使えないようです。漁業もダメですので、今後の町の再建に問題があると、副市長・議長からお話を聞きました。



救援物資は、トラックが1台ずつ、コンスタントに集積場に到着しています。避難所にも、水は有りました。食事は、自衛隊の炊き出しにより、おにぎりが配布されていますが、中に梅干くらい入っていたらなー！と、声が上がっているそうです。松川浦の捜索が自衛隊や機動隊により、行われていました。毎日20体ほどのご遺体が上がるそうです。

物資を提供されたメンバーの心は、一部の避難所直接配布により伝わったと思います。避難所から自宅に戻られた方への支援が、今後の問題だと感じました。

物流は復活してきたようで、朝閉まっていたコンビニも午後には再開していました。

ガソリンは、緊急車だけに対応していますので、市民は不自由しています。

東北道（高速道路）のICの有る福島市の中は、結構一般車が走っていて、ビックリしましたが、ガソリンは朝から給油所に列を作っています。

地方では車が足となっていますので、2台目の車にも満タンにしておきたいとの心理のようです。

救援物資は、沖縄の黒糖から、下着・おむつ・トイレットペーパー・お米・水など、多岐にわたります。特筆すべきは、お菓子・絵本・玩具などの子供用品です。むっとした顔でひたすら耐えている、シーンとした避難所に、笑顔がよみがえります。



今回の場合も、相馬市の受け入れは物資倉庫でしたので、直接配りたいものは、ライオンズとして直接避難所へ届けました。この辺が、かなり大事なことと思います。

行政は、公平性を常に考えますので、必要な避難者全員に配布出来ないものは、そのまま倉庫に眠ることとなります。

携帯電話が復旧しているので、避難者同士での情報交換が日常的に密に行われ、どこの避難所はどうだという比較ができてしまうそうです。

行政の対応が良い避難所へ、避難所移転する人も増えているそうです。

